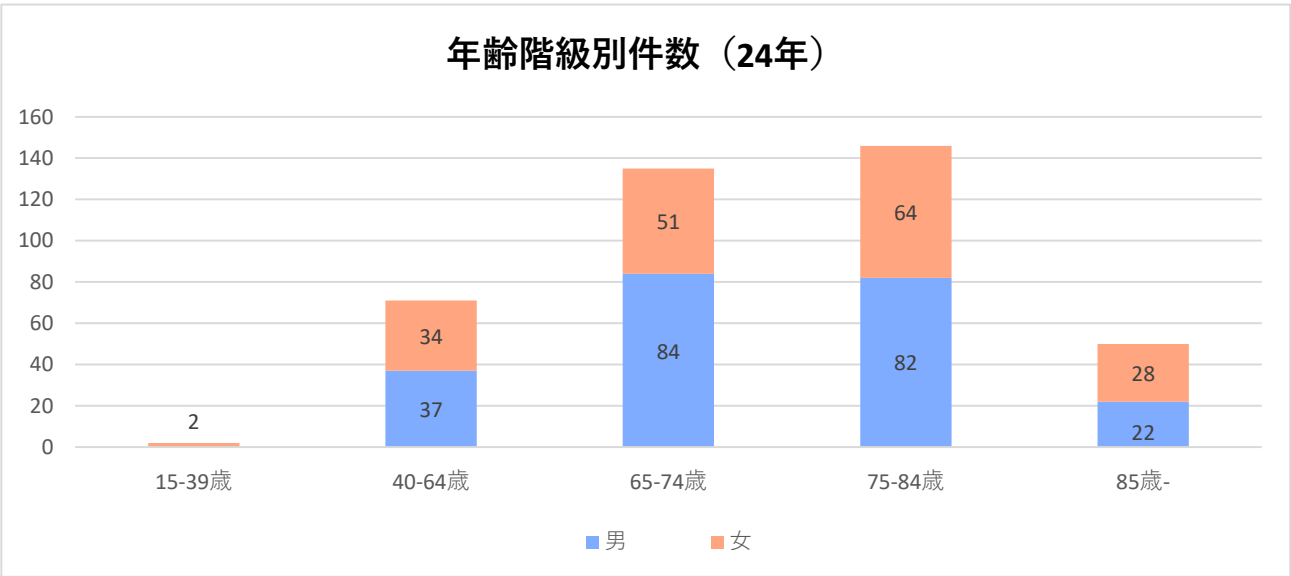
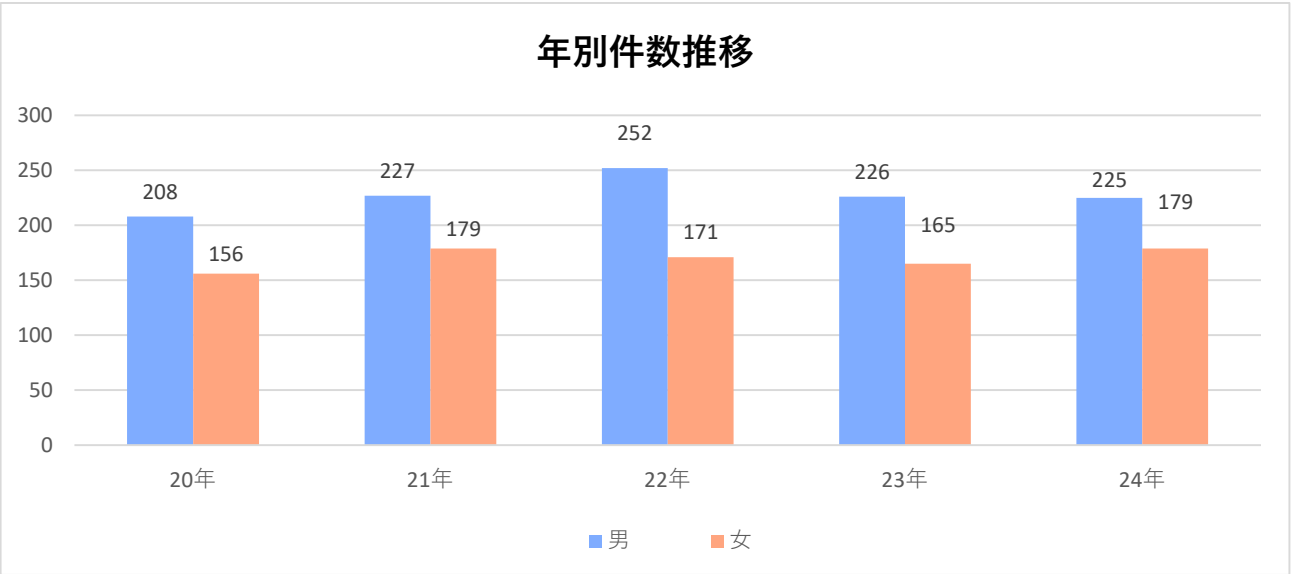


Ⅱ. 2024年集計＜部位別＞

1. 大腸

大腸に発生したがんを対象に、年別件数推移は直近5年間、年齢階級別件数は24年単年、主な紹介元先は直近5年間でグラフおよび表を作成した。
年別件数推移は男女共に20年が最も少なく、男性は22年で250件を超えたが、23年以降は230件未満で推移し、女性は170件前後で推移している。
年齢階級別件数は75歳-84歳が最も多く、次いで65-74歳も多かった。



主な紹介元

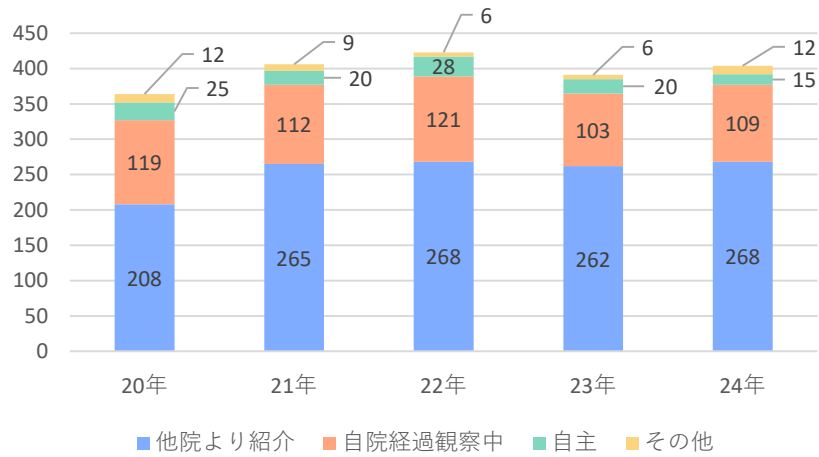
施設名	20年	21年	22年	23年	24年
石狩病院	11	19	25	12	15
札幌北円山内科・内視鏡クリニック	1	5	22	22	15
かわばた内科クリニック	0	2	4	9	15
かなもり外科胃腸科肛門科クリニック	24	25	23	22	13
おちあい内科・消化器内科医院	8	12	7	7	12

主な紹介先

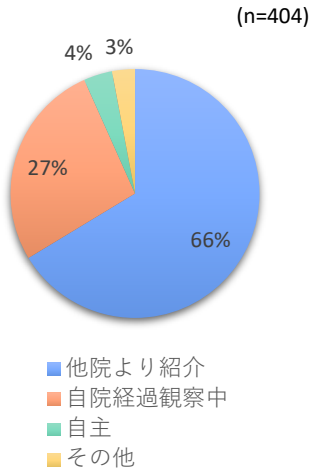
施設名	20年	21年	22年	23年	24年
石狩病院	1	4	1	3	7
倶知安厚生病院	0	2	2	2	6
東札幌病院	0	0	0	4	5
西成病院	2	0	3	2	3
イムス札幌内科リハビリテーション病院	2	0	1	2	2

来院経路・発見経緯・症例区分について、直近5年の件数と24年単年の割合でグラフを作成した。
来院経路は「他院より紹介」、発見経緯は「他疾患経過観察中」、症例区分は「自院診断・自院治療開始」が最も多かった。

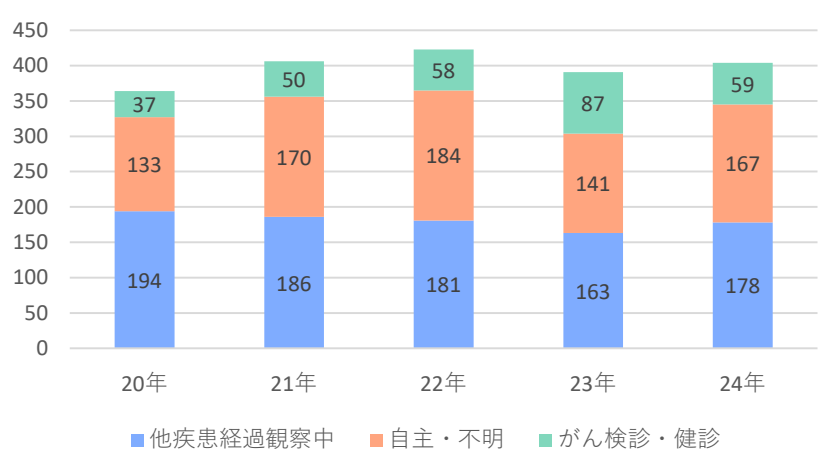
来院経路別件数



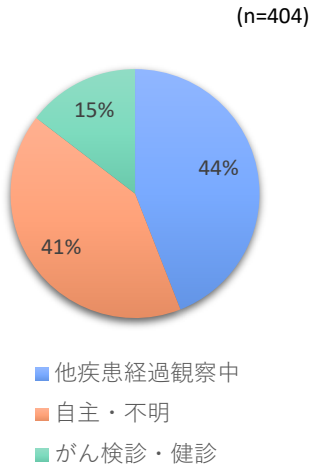
来院経路別割合（24年）



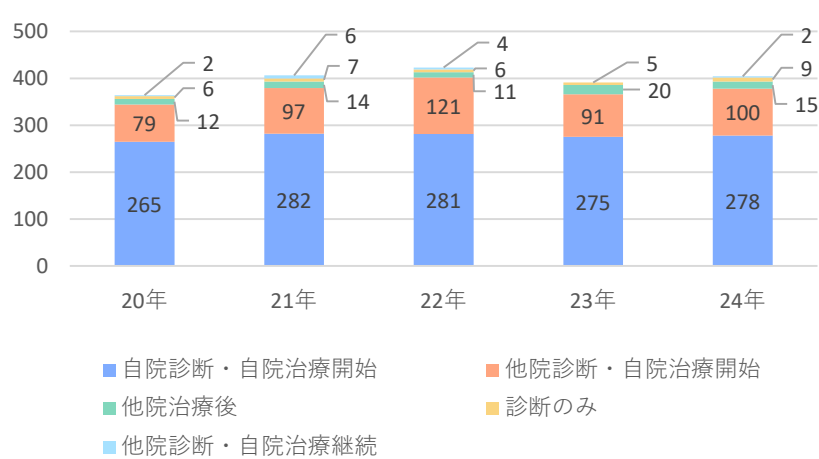
発見経緯別件数



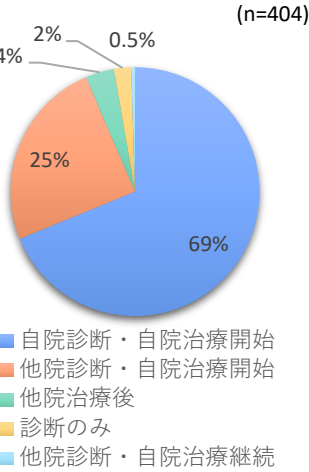
発見経緯別割合（24年）



症例区分別件数

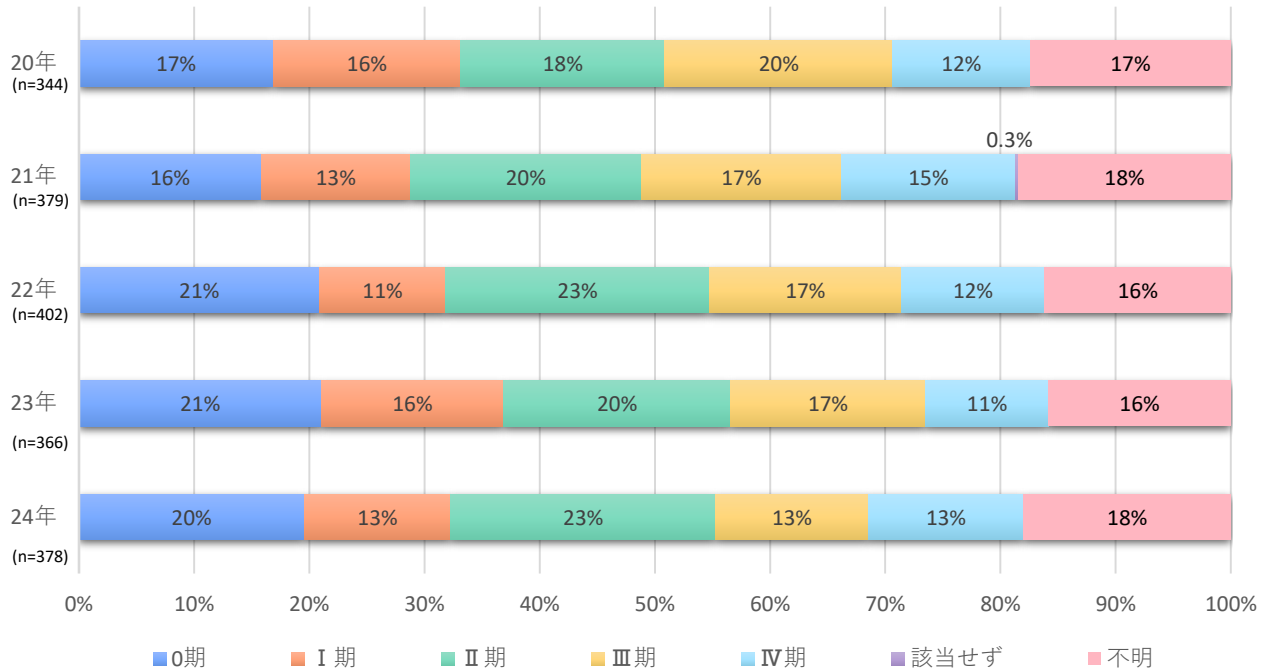


症例区分別割合（24年）

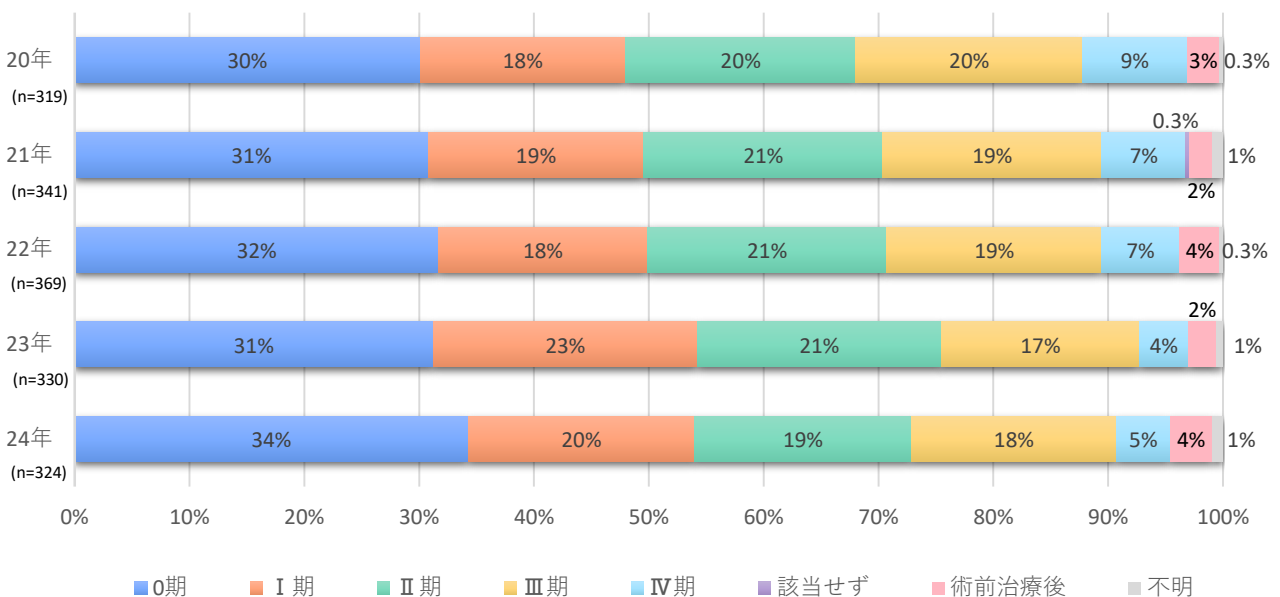


治療前・術後ステージ別割合について、直近5年間のデータでグラフを作成した。
 治療前ステージでは、24年に「Ⅱ期」が増加していた。
 治療前ステージ「不明」が多いのは、ポリープや腺腫等のがん以外の診断で手術を実施し、
 病理検査結果にてがんであることが分かった症例が「不明」に含まれるため。
 術後ステージでは全ての年で「0期」が最も多く、直近5年間で24年が最も多くなっていた。
 ※「該当せず」には、組織型がUICC第8版に該当しない症例が含まれる。
 ※「術前治療後」には、術前に化学療法や内分泌療法で病変を小さくしてから手術した症例が含まれる。

治療前ステージ別割合



術後ステージ別割合 (病理学的)



総合ステージ別に初回治療で実施した治療内容の割合について、24年単年で作成した。
0期では「内視鏡のみ」が、Ⅰ期～Ⅲ期では「手術のみ」が最も多かった。
Ⅳ期では、「治療なし」が最も多く、次いで「手術/内視鏡＋薬物」が多かった。
※「治療なし」には、無症状や高齢である等の患者状態により、経過観察を選択する症例が該当する。

